

Q

川本農産物直売所「道の駅かわもと」の拡張を望む



なが た かつ ひこ 永田 勝彦



映像は
こちらから

A 施設は使用者が主体となり整備するものときえる

Q 川本農産物直売所「道の駅かわもと」について、現施設の北側を買収し、建物の構築を進めることを望む。売り場面積が拡張されることにより、農産品の拡販を図ることができ、農業の担い手が現れる。更に遊休農地の解消にも繋がる。

A 川本農産物直売所は、平成元年に竣工し、その後周辺を埼玉県と協力して整備し、平成12年に「道の駅かわもと」として登録されている。現在、川本農産物直売所は「ふかや農業協同組合」が使用しており、飲食テナントが入っている物産館は市が管理している。飲食テナントがあるため、昼食時や土曜日・日曜日などで一時的に混み合う状況もあるが、比較的に利用しやすい施設となっている。昨年の5月には新型「コロナ」ウイルスも5類に移行し、「コロナ禍」が一段落したことで客足が伸びるこ



とも想定されるが、現在は例年並みの利用となっており、今後の状況を注視している段階にある。直売所の拡張により、売り場が広くなることによる効果も考えられるが、市内の他の直売所は土地も建物も農協で準備し運営しているものや、民間事業者が自前で運営しているものもある。このため、まずは農業者の支援をしている「ふかや農業協同組合」が主体となって整備するのが基本と考えているが、今後も「ふかや農業協同組合」との話し合いを継続していく。

Q

友好都市となる条件は何か



おか ひとし 岡 仁



映像は
こちらから

A 歴史的背景や民間・行政間の交流などを踏まえて判断

Q 会派の視察研修で宮崎県高千穂町を訪れた。高千穂神社には「畠山重忠公が植樹した杉の木」が大切に保存されていた。高千穂町と友好都市関係になれないか。

A 高千穂町との友好都市提携は現段階において考えていない。

Q 岩手県田野畑村や静岡県藤枝市はどのような経緯で友好都市となったのか。

A 田野畑村とは畠山重忠公、藤枝市とは旧岡部町と旧静岡県志太郡岡部町の町名が同じという縁があり、いずれも民間・行政間交流を続けてきたなかで友好都市として締結した。



●市街化調整区域の活性化について
Q 川本南地区は店舗が少なくなっている。このような地域の人口を増やし活性化させるため、市街化調整

●「ふかや緑の王国」について

Q 「ふかや緑の王国」について、休憩所、トイレ、案内掲示板等をリニューアルできないか。

A 客層によりお店側の意向も加わることもあるが、導入に向けて引き続き働きかけていきたい。

Q 地域通貨ネギーの取扱店について、深谷花園プレミアムアウトレット等で利用できるように積極的に働きかけできないか。

A 「ふかや緑の王国」は市民がつくり、市民が守り育てる、市民の森を目指して平成21年2月に開園し、現在までボランティア等で管理運営をしているが、全体的に施設の老朽化が進んでいる。休憩所については、ふかや緑の王国ボランティアと一般来園者の共用スペースとして利用している。ここには机と椅子、ボ



A 引き続き導入してもらえるように働きかけていく

Q 地域通貨ネギーの取扱店拡張について

ランティアが利用する物品や、バードハウスコンテストの優秀作品や広報などの配布物が置いてある。今後は、一般来園者が利用しやすいように王国ボランティアの方と協議をしていく。トイレについて、正門前のユニバーサルトイレは温水洗浄便座にするなど改修をしている。その他のトイレについては正門より新しい施設になるので、利用しやすいような看板等で周知していく。案内掲示板については順次リニューアルしていく。

Q

災害時、障害がある方のための本市の準備状況は



さか ひろし 坂本 博



映像は
こちらから

A 障害のある方は、合計373人の登録となっている。

Q 障害のある方に特化した「防災マニュアル」を作成できないか。

A 本市では、「災害時要援護者のための防災マニュアル」があり、今後、障害のある方の実情を踏まえ、内容を見直しながら更新していく。

Q 今後の上下水道の耐震化の計画はどのようなになっているか。

A 水道は、老朽管更新計画に基づき耐震化を進める。下水道は、老朽化対策を実施し、併せて耐震化を図っていく。

Q 障害のある方は、最初から福祉避難所に行くように案内しているか。

A 福祉避難所の数に限りがあることや、災害の規模等により、開設までに時間を要することなど、課題がある。本市では、福祉避難所と避難が必要な方と調整の上、福祉避難所を案内する体制としている。

Q 災害時等要援護者名簿登録制度で、障害のある方は何人登録をしているか。

